

環境学習プログラムの活動報告 ～白方小・中丸小・村松小～

村では、「東海村生物多様性地域戦略」(平成26年3月策定)に基づき、平成28年度から村内の各小学校と連携して、本村の自然を生かした環境学習を進めています。この戦略は、村内における生物多様性の保全・再生と、自然の恵みを持続的に得ることができるまちづくりを進めるものです。令和元年度は、5年生を対象として白方小学校、中丸小学校、村松小学校の3校で環境学習プログラムを実施しました。各校の活動は以下のとおりです。

【問い合わせ】環境政策課環境計画・緑化推進担当(☎282-1711 内線1454)



白方小学校



サシバ(タカの仲間)についての解説を聞く児童たち

白方小では、「白方地区の自然の価値や楽しさに気づき、発信すること」を目標に、生き物や植物、地形や湧き水など、学校周辺の自然に関する調べ学習を行いました。昨年の夏には、村の保全配慮地区に指定されている「前谷津湿地」のエコツアーに参加しました。児童たちは湿地内を探索し、ヤマウドやヤブカンゾウ等の食べられる植物を探したり、コマダラウスバカゲロウの幼虫やオニヤンマの羽化の様子を観察したり、サシバの鳴き声を聞いたりと、五感を使って前谷津湿地の自然を学ぶことができました。3学期にはフィールドワークを通じて得た学校周辺の自然環境についてまとめ、来年度活動を行う4年生に向けて発表を行いました。

白方小では、「白方地区の自然の価値や楽しさに気づき、発信すること」を目標に、生き物や植物、地形や湧き水など、学校周辺の自然に関する調べ学習を行いました。

昨年の夏には、村の保全配慮地区に指定されている「前谷津湿地」のエコツアーに参加しました。児童たちは湿地内を探索し、ヤマウドやヤブカンゾウ等の食べられる植物を探したり、コマダラウスバカゲロウの幼虫やオニヤンマの羽化の様子を観察したり、サシバの鳴き声を聞いたりと、五感を使って前谷津湿地の自然を学ぶことができました。



中丸小学校

中丸小では、総合福祉センター「絆」の北側に広がる緑地で、フィールドワークを行いました。春にはニホンカワトンボやニホンアカガエル、秋にはアキアカネやオンブバッタなど、季節ごとにさまざまな生き物を観察したほか、匂いや形、色をヒントに植物を探したり、食べられる野草に関する説明を受けたりして、自然環境に対する理解を深めました。さらに、ヨシの葉を使った舟作りや水生生物の観察など、自然の中での遊びを体験しました。2月15日には、イオン東海店で学習成果の発表会を行い、「絆」北側緑地の魅力や生態系の保全の必要性について、住民の皆さんに向けて広く発信しました。



水路にいる生き物の捕まえ方について学ぶ様子



村松小学校



学校内ビオトープでエコツアーの題材探し

村松小では、「やってみよう！エコツアーを計画するプログラム」を目標に、自分たちが“ガイド”となって学校ビオトープの魅力进行を他者に発信することを目指しました。夏と秋のフィールドワークでは、ビオトープに生息する昆虫と植物の特徴について学習しました。また、エコツアーに関する講話では、相手にとって分かりやすく伝える方法や、興味を持ってもらえる話し方等を学びました。3学期の授業参観では、保護者だけでなく地域の方や環境団体も招待し、今年度の学習の成果を発表しました。